

## 夢・感動そして創造

西村 駿一

(別府大学理事長)

別府大学文学部芸術文化学科が、創立30周年を迎えたことを学園の職員一同と共に  
お慶び申し上げます。今日まで学科の発展にご指導・ご支援下さった多くの人た  
ちに感謝し心よりお礼を申し上げます。

白い温泉の噴気が青空高く幾条にも噴き上げ、かすんだ鶴見連山の青緑と調和し  
て今日も美しく輝いています。学園は、恵まれた地域の美しい風土に生まれ、時代  
や世相と関わりつつ、時には拮抗し、呼応し、ひたすら私学として地域社会に貢献  
できる人材の育成に努めてきました。

芸術文化学科が、30周年を一つの節目として、新しい飛躍を夢見て、教育・研究  
への意欲的な改革の取り組みは、やがて、素晴らしい結果を生んでくれることでし  
ょう。想えば、「美学美術史学科」定員30名として1973年に多くの困難の中で誕  
生しました。美術実技とそれを支える美学概論・美術史論などの基礎理論とを総合  
的に構成し、より高次元の内容・目的を持たせての出発でした。1977年、教育内  
容を明確にし、より教育効果をあげるため、実技コースと理論コースの2分野に編  
成されました。学科を設置した年度の入学生は、わずか2名でしたが、1976年  
には33名と定員を満たすことができ、その後はほぼ順調に推移してきました。2000  
年、「芸術文化学科」と改組し、視覚文化コース・絵画表現コース・視覚伝達コース  
と3分野を設け、教育・研究の目的や内容を明確にし、個性豊かな人材育成をめざ  
しています。入学定員は30名から50名、現在は70名で、外国人留学生も受入れ着  
実な歩みを続けています。卒業生は、大学院に進学し、新しい挑戦にはげむ人たち、  
中学・高校の教員として活躍する人たち、子供たちに夢の世界の表現をめざして絵  
を教えながら自己の絵画制作に励み、個展の開催や団体展に出品し、入選・受賞す  
るなど素晴らしい成果を挙げている人たち、デザインの道を選んだ人たち。卒業生  
は、本学で学んだことを誇りとして喜びをもっていろいろな場で活躍しています。

また、来年度は、「マンガ・アニメーション」のコースを開設し、日本が誇る文化  
や芸術として深く学べるように取り組んでいます。マンガやアニメーションが大学で  
学べるという発想は、これまでになかったことです。社会や学生のニーズにどう応  
えるのか、常に学生たちと共に学び、行動し、そのことが学生にとってどうなのか  
議論し実践する芸術文化学科の教授陣の姿に拍手を贈ります。

私は、長年にわたり『ふるさと』をテーマに絵画制作を続けています。私たちが  
生まれ学び育ち、今生きているふるさと、その歴史・文化に学び、生きることの大  
切さを知り、大自然の雄大な力と美しさを知り、人々との出会いや語らいから人間  
尊重の心も生まれます。時間的なゆとりがあれば、心が豊かになるとは考えられま  
せん。科学の発達には、私たちが感動の世界から遠ざけてしまったようです。“ふるさ  
と”の大自然は、美しく輝き、私たちに感動と創造の世界を与えてくれます。春に  
なると黒々とした大地から、もくもくと草木は芽吹き、大きな茎に成長し、葉を広  
げて花が咲き、秋になると実をつけ、葉を落し、その葉は寒い冬に己を守ります。  
四季おりおりの移り変わりの中にいろいろな感動や発見があり、生命を感じ、生きる  
ことの大切さを知ります。日頃の生活の中で、積極的に感動する心、発見し、創造  
する心を持つ人材を育てることが、21世紀を活力ある時代にするようになるでし  
ょう。芸術文化学科の30年の歴史に学び、50周年、100周年に向けて夢と希望と勇  
気を持って更なる改革と発展を続けたいものです。